

「新しい身分に生きる」

2019年2月24日

聖書を拝読します。ガラテヤ3章23節—29節。

23 しかし、信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視されており、やがて啓示される信仰の時まで閉じ込められていた。24 このようにして律法は、信仰によって義とされるために、わたしたちをキリストに連れて行く養育係となったのである。25 しかし、いったん信仰が現れた以上、わたしたちは、もはや養育係のもとにはいない。26 あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。27 キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。28 もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。29 もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。

私には三つの身分証明があります。パスポート、運転免許書、そしてソーシャル・セキュリティカード。これらの証明書は私がどんな人間であることを証明してくれるものです。

私達がクリスチャンになると私達には新しい身分が与えられます。それは、目に見える形で与えられるものではありませんが、確かにそれは神様から与えられるのです。そのことについて今日は私達の三つの身分についてお話ししたいと思います。

神様が私たちに与えてくださる第一のものは「神の子」となるということです。

神の子となる

今日の聖書箇所の前26節を見ますと「あなたがたは皆、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである」と書かれています。そして、この箇所の前24節、25節あたりを見ますと「養育係」という言葉を私たちは見出します。養育係とは親以外の者で子供を養い育てる者のことを言います。

そして、この箇所によりますと人はかつてこの養育係のもとで育ってきたというのです。そして、その養育係とは何なのかと言いますと神が彼らに与えた「律法」なのだということが23、24節を見ます時に分かります。

聖書を全て読もうとする者は旧約聖書のレビ記、民数記、申命記においてこの律法の山が前途に立ちはだかっていることを知ります。もう、それこそ「なんだ、これは！」というほどに圧倒される律法の山々です。「こうしてはならない、こうしなければならない」と言う言葉が延々と続きます。正直な気持ち、こんな律法をなぜ、神は定められたのかという疑問がわいてきます。

実はこの律法は私たちが真に神の子となるために、そこに導かれるために必要なものなのです。なぜなら、このようなルールがなければ、私たちがしていることが良いことなのか、悪いことなのかの区別ができないからです。スピード制限の交通標識があって、初めて私たちは法定速度を守っているのか、破っているのかを知ることができるのです。

それはローマ書でパウロも指摘しているとおりなのです。『それでは、わたしたちは、なんと言おうか。律法は罪なのか。断じてそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったであろう。すなわち、もし律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりなるものを知らなかったであろう』（ローマ7章7節）。

ですから律法は鏡のようなもので、その鏡に私達の姿が映されることによって私達は自分を知るのです。そして、そこには律法を守れない自分の姿が映ります。その鏡は自分の姿を映すことしかできないのであって、心にとどめて下さい、鏡に映る顔の汚れを鏡で洗い流すことはできないのです。

このことについてもパウロははっきりと明言しています。「律法によって、罪の自覚が生じるのみである」（ローマ3章20節）

このことゆえに確かに神が与えたもう律法が必要なのです。律法のないところに、罪の自覚は生じません。そして、律法によって明らかにされた私達の罪、その罪はイエスの十字架によって赦されるのです。実に律法は養育係として私達をイエス・キリストへと出会わせ、私達を神へと導いていくのです。

聖書はおもしろい表現をこの後のガラテヤ書4章6節でしています。それは私たちがこの神を「アバ、父よ」と呼ぶことが出来るというのです。

「アバ」とはユダヤ社会で幼子が親しみをこめてその父親を「お父ちゃん」と呼ぶことです。英語で言うならば父を「ダディ」と呼ぶことと同じなのです。

私達に養育係りは必要でした。しかし、いつまでも「罪を犯してしまった」という律法の中に私たちは生きるのではありません。

26節に「あなたがたは皆、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである」とあるように、私たちの罪はイエス・キリストの十字架によって赦されたのです。それゆえに私たちは父なる神の子として、この律法から解き離れて自由に生きることができるようなのです。

私たちの二つ目の身分として私たちはキリストにあって他のクリスチャンと一つとなるということです。

キリストにあって一つとなる

クリスチャンとなる時に、私達はキリストにある家族に属します。それは、他のクリスチャンです。なぜなら、私たちは共通のお方を父に持つからです。そこには国籍の違いはありません。その人の身分とか性別の違いもなく、神を父とする家族は一つなのだということです。

そのことが26節から28節にこう説明されています「26 あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。27 キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。28 もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。（ガラテヤ3章26節－28節）。

もちろんクリスチャンになるということでも互いに同じ屋根の下で暮らすということはありません。どこかのカルト宗教のように、出家して、自分も財産も全て捧げるということでもありません。たとえそのような目に見える形では一つに見えずとも、私たちはキリストにあって一つだと聖書はいうのです。

コリント人への第一の手紙12章においてパウロは私たちがキリストにあって一つであるということ、人間の体に譬えました。私たちは、それぞれがキリストの体の各器官だと彼は言うのです。

ええ、あの人が私と結びついているなんて、何の接点もありませんという方がいるかもしれません。しかし、誰でもキリストにあるならば、私たちは一つの体の一部なのです。あなたの両隣の人を見てください。おそらく、生まれも育ちも違うし、年齢も離れているかもしれない、しかし、あなたもあなたの両隣の人も神を父とする神の子であり、私達はキリストの体の一部なのです。

3つ目のこと、それは私たちは神の相続人となるということです。

神の相続人となる

皆さんは誰かの相続人になっているのでしょうか。相続するのも色々あって、相続税がかかったりとかえって苦労する方もいるようです。

しかし、今日、記されている聖書の約束は驚くべきものなのです。「相続」なんて自分には関係ないと思っていたのに、いいや、あなたは私の相続人なのだここに記されているのです。

私の家の側のセブンイレブンに行きますと販売中のくじの賞金総額が張られています。時々、その額が100ミリオンであったりすることを見ることがあります。これだけのものがあつたらものすごい教会が建つだろうなとチラッと考えることがあります。

私たちは神の相続人になるのです。これは100ミリオンが当たるどころの話ではありません。ビル・ゲイツの相続人になることも比較できません。

あのグランドキャニオンもエベレストも所有しておられるばかりか、あのオリオンも火星も所有しておられる、そして、永遠の時をも所有しておられる方を私たちは「父さん」と呼ぶことができ、私達はその相続人なのだということです。

皆さん、もし、今日、「この\$1のくじは当たり券であって、これを買うならば、あなたの口座には30億円が入ってくるよ」と言われれば、そして、本当にその話が事実であるならば、それを\$1出して買わない人はいないと思います。「えー、\$1出すのはモッタイナイ！」という人や、

2019.2.24 「新しい身分に生きる」

「どうしようかな、一晩考えさせて！」と言う人はいないと思います。私たちはすぐに1ドルを差し出すでしょう。

私が教会と家を行き来する道すがらに大きな看板があります。かつてその看板に満面の笑みを浮かべた人の顔がありました。何の看板か。それは、サンディエゴにある某カジノで5万ドルをあてた人だそうです。あの看板を見る人は心の中で思うのでしょうか。「よし、待ってるよ、次は俺の番だ」。

ガラテヤ3章29節「もし、キリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による（神の）相続人なのである」。

私達はとてつもない約束を見過ごしています。どれだけの人がこの驚くべき約束には見向きもしないで、日夜、宝くじやカジノで大金を、人生を失っているのでしょうか。

私達の身分証明には「神の子」「神の家族」「神の相続人」というスタンプが押されているのです。そして、それはキリストにある全ての人に約束されているものなのです。あなたはこの三つを確かに自分のものとしているのでしょうか？

お祈りしましょう。

神様は世の中には手に入れることができないもの、お金で買えないもの、自分の努力で掴みとることができないものがあります。今日は、そのような3つのものを見てきました「神の子となること」「神の家族になること」「神の相続人になること」。これらの素晴らしい約束が私たちに与えられていることを感謝します。

「いつでもあなたにこれらを与えるよ」とあなたは言っていて下さるので、すから、「ありがとうございます」と信仰を持って受け取ることができますように。そして、この3つの身分証明と共に、私たちの人生を生きることができますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン